

デジタルカメラで「交流・振り返り・表現」

副題

～児童の「表現する力」の育成を目指して～

キーワード デジタルカメラ, 表現する力, 交流, 振り返り

学校名 宮崎市立国富小学校

所在地 〒880-0924
宮崎県宮崎市大字郡司分甲2226

ホームページ
アドレス <http://www.mcnet.ed.jp/nc/kudomi-s/htdocs/>

1. 研究の背景

本校児童は、全体的に明るく素直で真面目に学習に取り組んでいる。また、指示されたことに対しては、進んで取り組む傾向にある。しかし、日常の児童の様子を観察すると、自分の考えや思いを表現することに対して苦手意識をもっている。児童へのアンケート調査では、「作文が苦手・要約が苦手・話すことが苦手」という結果が出ている。実際、学習中の児童の様子に関して、教員の感じていることをまとめると次の2点が挙げられた。

- ① 発表するときに内容が整理できていない。
- ② 何を伝えるのかが明確になっていない。
- ③ 内容が自己本位的な部分がある。

全国的・国際的な学力調査でも、今の日本の子どもたちは、学ぶ意欲や判断力、表現力に課題があることが指摘されており、「生きる力」の一要素をなす「確かな学力」とは『知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの』とある。本校の課題である「表現する力」の育成を図っていくためには、様々な表現活動を行い、児童が「課題について考える場」「何が必要かを判断する場」「自分の考えや思いを整理して表現する場」を設定し、教師が意図的に繰り返し指導を行っていくことが重要であると考えた。

本校は、平成27年度から、宮崎市教育委員会の指定を受けて、研究主題「考えを深め合い、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成～対話による“交流”と言葉による“ふり返り”を位置付けた授業改善を通して～」のもと研究を推進してきた。学習の中に、児童がお互いの考えや思いについて対話する「交流の場」を設定したり、学習の中で自分の学習を「ふり返る場」を設定したりすることで、主体的に学習に取り組むようになり、相手を意識した表現する力も少しずつ育成されてきている。

また、平成26年度、パナソニック研究助成を受けて、デジタルカメラを導入して日々の学習に役立ててきた。児童は、デジタルカメラを活用することに意欲を持って取り組み、活用の頻度も高まっていた。それにより、児童の表現力も少しずつ高まりつつあった。しかし、活用が増えるほど、デジタルカメラの故障も増えるという現実もあった。

2. 研究の目的

現在、少しずつ高まりつつある「表現する力」をより向上させるためには、さらに学習活動の中で表現する場を設定し、「伝える」ことを意識した活動を仕組んでいくことが重要である。また、これまでの「交流」と「振り返り」を位置付けた授業を行うことで、主体的な学習に取り組み、表現する力の育成につながると考える。児童が自分の思いや考えを表現する道具として、児童にとって身近な「デジタルカメラ」を活用し、自ら進んで課題について考え、相手に分かりやすく伝える力を育成していくことは、「情報活用の実践力（課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集【調べる】・判断・表現・処理・創造し【まとめる】、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる【伝える】能力）」の育成を図ることにつながると考えた。

自己中心的な表現ではなく相手に伝わる表現ができるようになるために、学習中に「対話による交流」を位置づけて話し合う活動を行う。さらに、学習を振り返り「何を学んだのか」「どんなことを考えたのか」「どんな変化があったのか」等を考える場を設定することで、児童が自分の成長を確認しながら学習を進めることができ、より深い学びへとつながり「表現する力」を向上させると考えた。

3. 研究の経過

（1）目指す児童像

まず、今回の研究において「目指す児童像」の共通理解を図り、その項目をもととして、児童の意識調査を行い、現状を把握することとした。目指す児童については、「火曜の会ホームページ」の「情報教育の実践と評価のためのポータルサイト」における「情報活用の実践力のモデルカリキュラム」を参考にして、本校児童の実態も考慮し、下記のように設定することとした。

中学年用【アンケート】		高学年用【アンケート】	
1	作文を書いたり、発表したりするときに自分の言いたいことをきちんと表すことができる	1	自分が伝えたい内容を考えながら、内容に合った情報を選ぶことができる
2	文章にまとめるときに、「調べたこと」と「自分の意見」を区別してまとめることができる	2	自分が伝えたいことを、簡潔書きにして表すことができる
3	作文を書いたり、発表したりするときに順序を考えて分かりやすく表すことができる	3	「5W1H」を意識しながら、相手に効果的に伝わるように構成を考えることができる
4	作品を作るときに、いろいろ調べて発表の資料を作ることができる	4	考えたことや自分の意図が相手に伝わりやすいよう話を組立てることができる
5	調べたことをまとめるときに、文字の大きさ・色などを考えて資料をつくることができる	5	わかりやすく伝えるメディアを選んで、自分の考えを表現することができる
6	まとめる内容にあわせた「写真」や「資料」を準備して発表することができる	6	話の流れに沿った適切な写真やイラストを選択することができる
7	伝えたい内容について、短い言葉（タイトル）を工夫してうまく伝えることができる	7	発表内容に合わせて、プレゼンテーションの構成を組み立てることができる
8	発表をするときに、伝える相手をしっかりと見て話すことができる	8	聞き手の反応を見ながら話すことができる
9	姿勢や口の形などに注意して、はっきりした発音で話すことができる	9	相手の意見を理解して質問をしたり、答えたりすることができる
10	他の人の作品を見て、「どこをなおすとよりよくなるか」を見つめることができる	10	他の人の作品を見て、「どこをなおすとよりよくなるか」を見つけて、わかりやすく伝えることができる

【表1 中・高学年における目指す児童に関する意識調査項目】

実践後、再度同じ意識調査を行い、児童の表現する力の育成がどのように変容したのかを最終的に見取ることとした。

（2）「交流」と「振り返り」の場の設定

学習の中に「対話による交流」と「言葉による振り返り」を位置付けた授業デザインについての共通理解を図った。（図1 対話と振り返りを位置付けた授業の概要）

本授業デザインにおいては、特に、下記の点に注意をしていくことを確認した。

- ① 児童が主体的に取り組むような課題の設定
- ② 児童が主体的に考えていくような発問の在り方

- ③ 思いや考えをもつ時間の確保
- ④ 交流の仕方の検討（ペア学習，グループ学習 → 全体交流）
- ⑤ 振り返りの観点
- ⑥ 1 単位時間の時間配分



【図1 交流と振り返りを位置付けた授業デザインの概要】

（3）表現ワークシートの活用

国語【活動報告書】	
5年 組 名前（ ）	
めあて	
まとめ方	
伝えたいこと	
どんな写真を使うか	
(絵)	(理由)

児童の表現が，自己本位的な表現にならないようにするためには，自分の思いや考えを整理する必要があると考えた。これまでの実践より，教師側が「よく考えてまとめましょう」等の発言をすることがあった。しかし，児童は具体的に自分の考えや思いを整理することができない。そこで，表現ワークシート（図2参照）の活用を取り入れることとした。自分が考えたことや調べたことを表現ワークシートに整理することで，何がわかっていて何を伝えたいのかを明確にすることができると考えた。

表現ワークシートについては，関西大学・黒上晴夫教授の提唱している「シンキングツール」を活用することとした。児童の思考の流れを考慮して，作成することとした。

【図2 表現ワークシートの例】

4. 代表的な実践

ここでは，3年生の実践「スーパーマーケットで働く人たち」の実践について報告する。

本学習は，スーパーマーケットで働く人達の工夫や思いについて見学活動等とおして考えていく内容である。特に，今回の研究との関連では，「スーパーマーケットの工夫についてまとめる」活動を中心として行った。以下，学習の流れを記す。

① スーパーマーケットへの興味・関心を高める。

身近なスーパーマーケットのチラシ（数枚）を確認して、どのような工夫があるのかを考える。

② スーパーマーケットの工夫について考える。

学校放送番組を見て、スーパーマーケットの工夫を知る。さらに、どのような工夫があるのかを対話をとおして考える。

働く人たちとわたしたちのくらしワークシート ③-2 3年（ ）組（ ）班	
「お店の中」のくふう ①「靴」が置いてある ②「カート」が入り口においてある ③入り口近くに、「きせつの商品」を置いてある ④「ししよく」ができる ⑤「放送」でしょうかいしている ⑥いろいろな「受売り」をしている ⑦「はんかくしール」をはっている（季節によって） ⑧「サービスカウンター」がある（こまったときに） ⑨「しんせんに見えるくらう」をしている ⑩「商品を使ったりょうりの作りか」が紙に書いてある ⑪「はだんを大きく」書いてある ⑫「入り口近くにチラシ」がはってある ⑬「おすすめの商品」を置いてある	「お店の外」のくふう ①駐車場のたくさんある ②お店の近くに他のみせがある ③小さな銀行がある ④うらぐちがある
「お店のうら」のくふう ①やくわりをわけている	その他 ①お店の中にほかのお店がある

【図3 表現ワークシートの例】

児童からは様々な工夫が出てきた。そこで、様々な工夫について表現ワークシート（図3参照）により整理を行った。整理をしてみると、お店の中の工夫がとても多いことに気付いた。また、それ以外の場所についての工夫については、あまり気付いていないことがわかった。そこで、見学の際には、特に「お店の裏の工夫」等を調べることを大事であることを考えた。

③ 見学を行う。

学校放送番組や教科書等の資料から気付いた「スーパーマーケットの工夫」が実際にあるのか、他にどのような工夫があるのかを目的として見学を行った。また、特に見学を通して気付いた工夫を中心にまとめることとした。



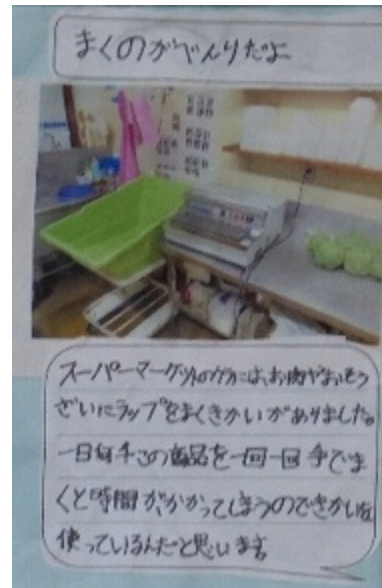
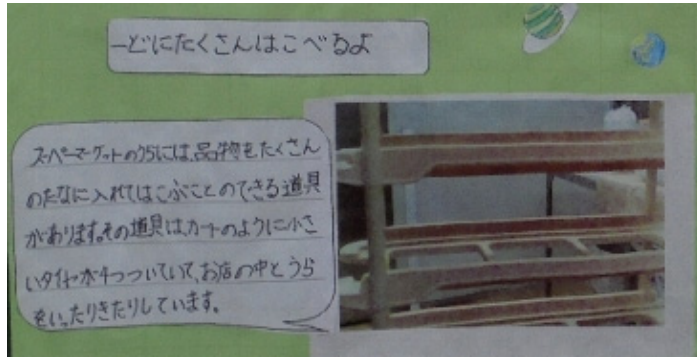
【写真1 見学する児童】



【写真2 まとめをする児童】

見学（写真1参照）をとおして、児童は自分達が気付いた工夫を確かめながら、自分達が気付いていない工夫を見付け、デジタルカメラを用いて撮影をしながら見学を進めていった。

自分たちが撮影した画像を見ながら、特に伝えたいと考えた工夫を整理して「まとめ」に書いていくこととした。（写真2参照）まとめについては、「タイトル」「画像」「文章」という3点でまとめることとした。児童は、文章をどのように書くとわかりやすいのかという観点でお互いに交流しながら活動を進めていった。相談しながら、文章表現を少しずつ変えながらまとめることができた。また、タイトルについて、いろいろな意見を出しながら適したものを考えていた。



【図4 児童の作品】

毎時間の終末には、「振り返りカード」で学習を振り返る場を設定した。「班で考えると1人で考えるよりどんどん工夫が浮かんできた」「みんなで考え、自分の考えが正しいことがわかりました」「もっと詳しく調べていきたいです」などの交流することのよさや意欲を表す感想が多く見られた。

5. 研究の成果

児童への意識調査（実践前・6月，実践後2月）を行った結果は下記のようになった。

中学年用【実態調査】				6月 平均値	2月 平均値	有意差 * 5%未満 ** 1%未満
1	作文を書いたり、発表したりするときに自分の言いたいことをきちんと表すことができる	2.62	3.13			
2	文章にまとめるときに、「調べたこと」と「自分の意見」を区別してまとめることができる	2.75	3.05			* *
3	作文を書いたり、発表したりするときに順序を考えて分かりやすく表すことができる	2.74	3.25			
4	作品を作るときに、いろいろ調べて発表の資料を作ることができる	2.99	3.33			* *
5	調べたことをまとめるときに、文字の大きさ・色などを考えて資料を作ることができる	3	3.37			* *
6	まとめる内容にあわせて「写真」や「資料」を準備して発表することができる	2.85	3.31			
7	伝えたい内容について、短い言葉（タイトル）を工夫してうまく伝えることができる	2.8	3.21			
8	発表をするときに、伝える相手をしっかりと見て話すことができる	3.15	3.31			*
9	姿勢や口の形などに注意して、はっきりした発音で話すことができる	2.98	3.15			
10	他の人の作品を見て、「どこをなおすとよりよくなるか」を見つづけることができる	2.68	3.24			

高学年用【実態調査】				6月 平均値	2月 平均値	有意差 * 5%未満 ** 1%未満
1	自分が伝えたい内容を考えながら、内容に合った情報を選ぶことができる	2.84	3.22			
2	自分が伝えたいことを、箇条書きにして表すことができる	2.97	3.48			
3	「5W1H」を意識しながら、相手に効果的に伝わるように構成を考えることができる	2.75	2.98			* *
4	考えたことや自分の意図が相手に伝わりやすいよう話を組立てることができる	2.54	2.90			* *
5	わかりやすく伝えるメディアを選んで、自分の考えを表現することができる	2.40	3.06			
6	話の流れに沿った適切な写真やイラストを選択することができる	2.78	3.52			
7	発表内容に合わせて、プレゼンテーションの構成を組み立てることができる	2.49	3.06			
8	聞き手の反応を見ながら話すことができる	2.81	2.95			
9	相手の意見を理解して質問をしたり、答えたりすることができる	2.40	2.94			
10	他の人の作品を見て、「どこをなおすとよりよくなるか」を見つづける、わかりやすく伝えることができる	2.46	2.67			* *

【表2 意識調査結果】

平均値については、全ての項目で、実践後の方が実践前を上回る結果となった。今回の取組により一定の効果が上げられたと考えられる。特に、有意差が見られた項目は次の項目であった。

【中学年】

- 文章にまとめるときに、「調べたこと」と「自分の意見」を区別してまとめることができる。
- 作品を作るときに、いろいろ調べて発表の資料を作ることができる。
- 調べたことをまとめるときに、文字の大きさ・色などを考えて資料をつくることができる。
- 発表をするときに、伝える相手をしっかりと見て話すことができる。

【高学年】

- 「5W1H」を意識しながら、相手に効果的に伝わるように構成を考えることができる。
- 考えたことや自分の意図が相手に伝わりやすいよう話を組立てることができる。
- 他の人の作品を見て、「どこをなおすとよりよくなるか」を見付け、わかりやすく伝えることができる。

中学年においては、調べたことと意見を区別したり、相手を意識して資料を作成したりする点での効果を児童が感じていると言える。また、高学年においては、より相手意識を高めて表現する力が育成されてきたと考える。

また、本研究を通じて、教師が意図的に表現活動を工夫していくことで、児童の表現する力の育成につながっていくことの共通理解を図ることができた。表現ワークシートを工夫することで交流をより効果的に行ったり、振り返りを行うことで児童が自己を見直し次の学習への意欲を高めたりすることができ、主体的な学習へとつながると実感できた。

6. 今後の課題・展望

今回は、各学年において国語科、社会科、総合的な学習の時間における年間2事例程度に取り組んだ。今後、事例の数を増やしていくことで、より児童の「表現する力」を図ることができると考える。また、各学年4学級ある本校では、今後他学級の先生方にも、今回の実践内容を広げていくことが課題の一つと言える。より「表現する力」を高めるために、児童の考えを整理していくための表現ワークシートで取り扱った思考ツールの活用法の研究をさらに深めていく必要もあると考える。書籍やホームページの資料をもとにして、今後、校内での共通理解を図りその活用方法を考えていきたい。

7. おわりに

様々なICT機器が導入され様々な実践が進められている。デジタルカメラは、他のICT機器より児童にとって取り扱いやすく、その画像をとおして様々な表現活動が考えられる機器である。手軽な機器を活用して、学習内容を充実させることで表現力だけでなく、思考力や判断力の育成にもつなげられると考えられる。今後、主体的・対話的な深い学びの実現に向けて、本校職員と協力しながらその活用方法を考えていきたい。

8. 参考文献

- ・「教育の情報化に関する手引」 文部科学省 平成22年10月29日
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm)
- ・火曜の会ホームページ (<http://kayoo.org/>)
情報教育の実践と評価のためのポータルサイト (http://jnk4.info/www/JNK4_PortalSite/)
- ・教育技術 MOOK 考えるってこういうことか!「思考ツール」の授業 (小学館)
田村学, 黒上晴夫著
- ・思考ツールを使う授業「関大初等部式 思考力育成法(教科活用編)」(さくら社)
関西大学初等部
- ・授業の見方「主体的・対話的で深い学び」の授業改善(東洋館出版社)
澤井陽介著